

7

ざっくり 聖書入門

「ダビデ」

サムエル記



【聖書入門 全12回のアウトライン♪】

■旧約聖書■

- ①アダム
- ②ノア
- ③アブラハム
- ④ヤコブ
- ⑤モーセ・前編
- ⑥モーセ・後編
- ⑦ダビデ
- ⑧エレミヤ(預言者たち)

■新約聖書■

- ⑨メシア・前編
- ⑩メシア・後編
- ⑪使徒たち
- ⑫今を生きる私たち

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 混沌の時代

II. ダビデの召命と試練

III. ダビデの栄光と過ち

IV. ダビデ契約とは？

V. ダビデに学ぶこと

救いを完成してくださる主



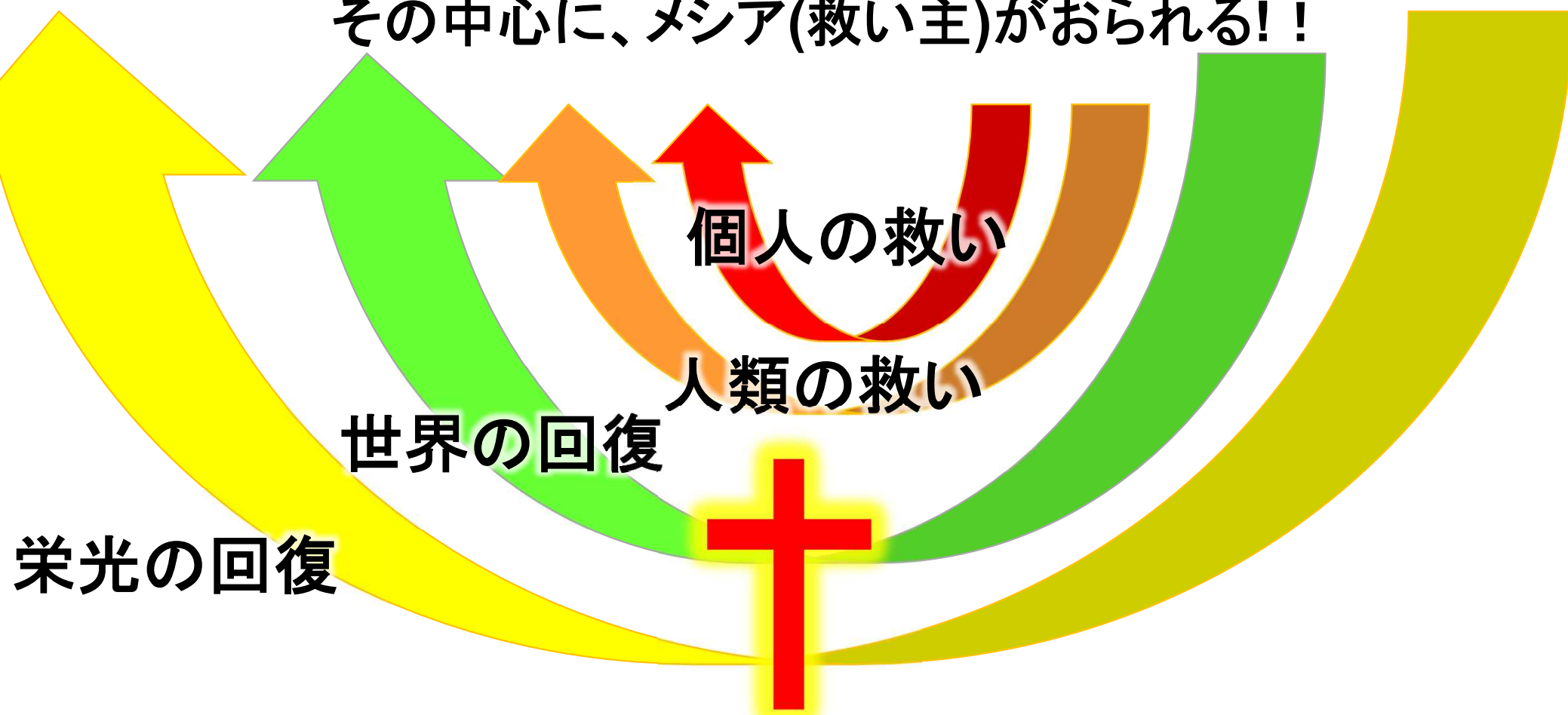


ふりかえり



聖書の最大のテーマは、「神の栄光の回復」

世界に神の栄光が回復される時、すべて回復される。
その中心に、メシア(救い主)がおられる!!



神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

この「アブラハム契約」は、
アブラハムから、イサク、
そして、ヤコブへと継承された。



【アブラハム契約とは？】

■ 聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

① 子孫の約束

② 土地の約束

③ 祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

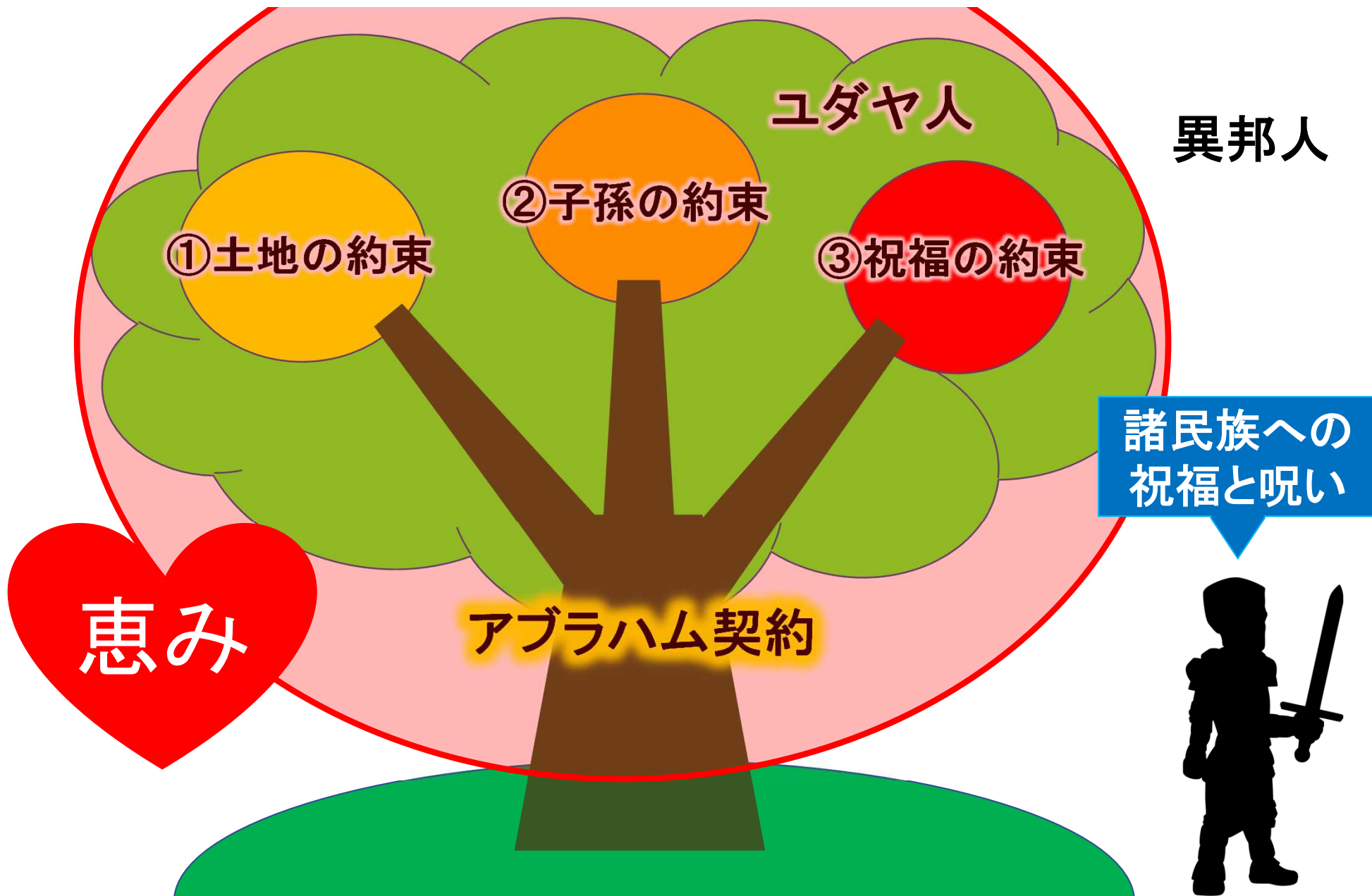
※付帯条項 ... 祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ... 割礼

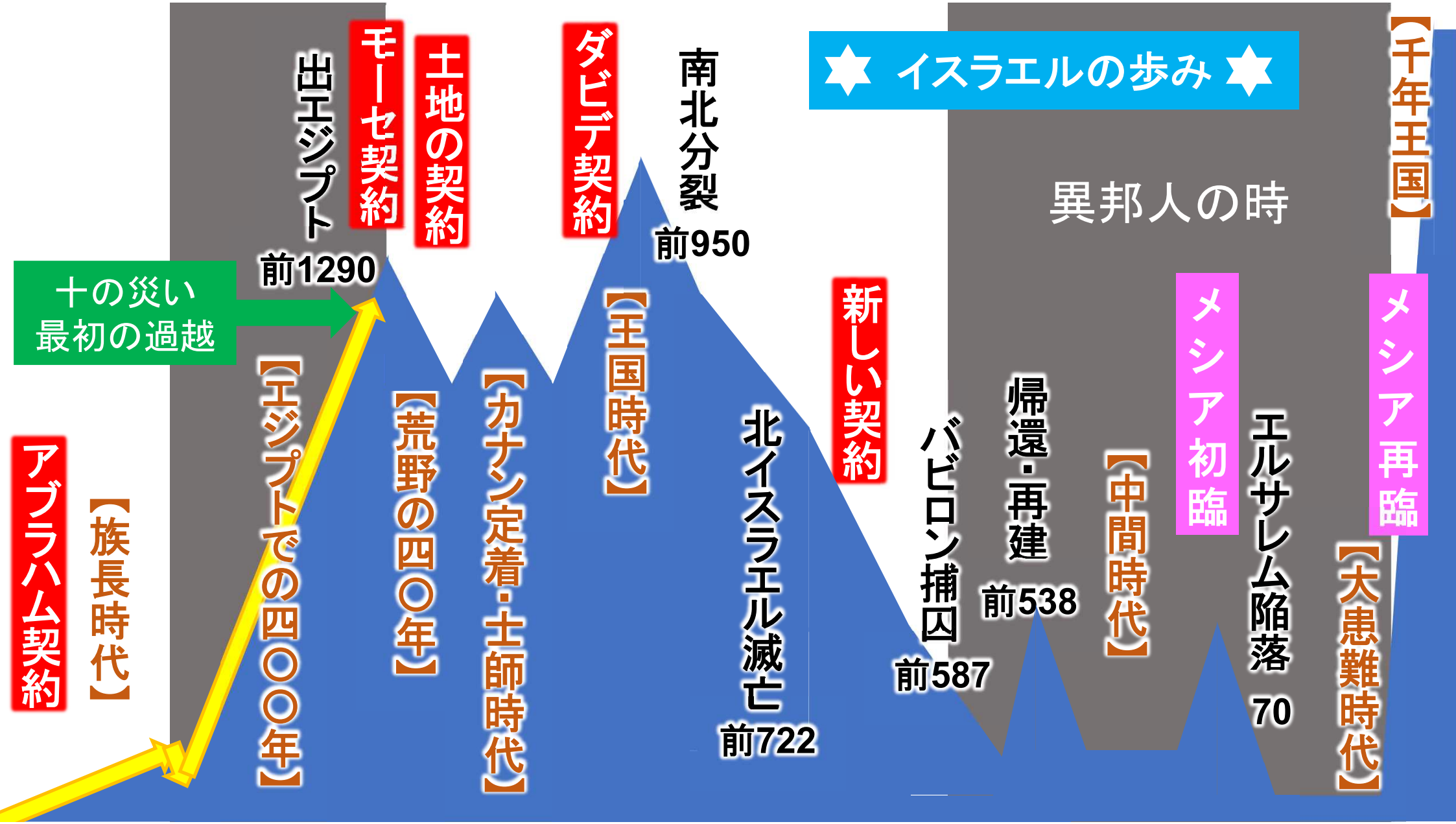
神の契約が、
アブラハムと子孫を
守り、導く



【アブラハム契約】



★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

十の災い
最初の過越

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

南北分裂
前950

【王国時代】

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

バビロン捕囚
前587

【中間時代】

帰還・再建
前538

メシア初臨

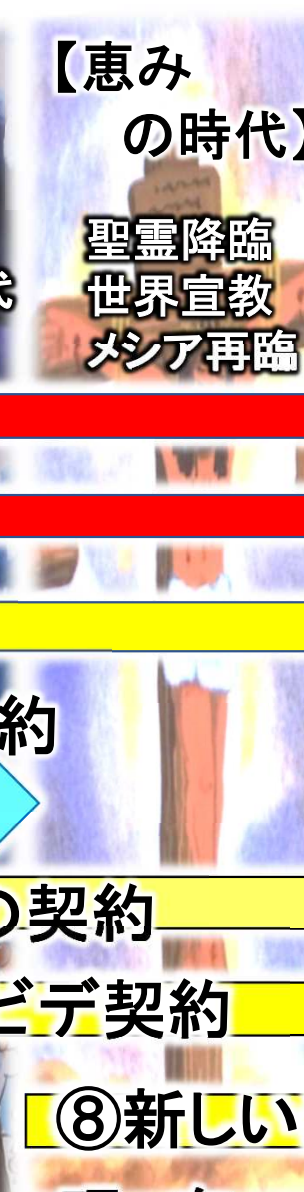
エルサレム陥落
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時



【恵みの時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

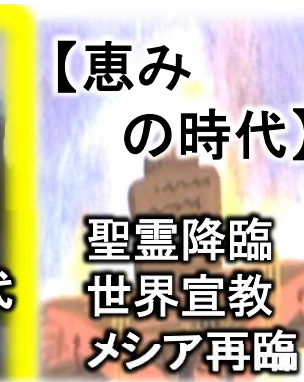
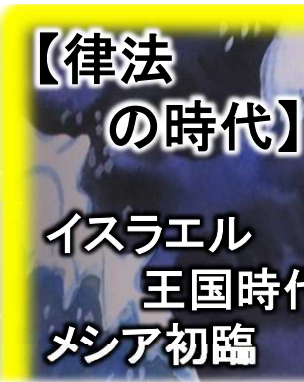
⑧新しい契約

聖書を貫く
七つの時代と
八つの契約

過去

現在

未来



【恵みの時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの
塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン
契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

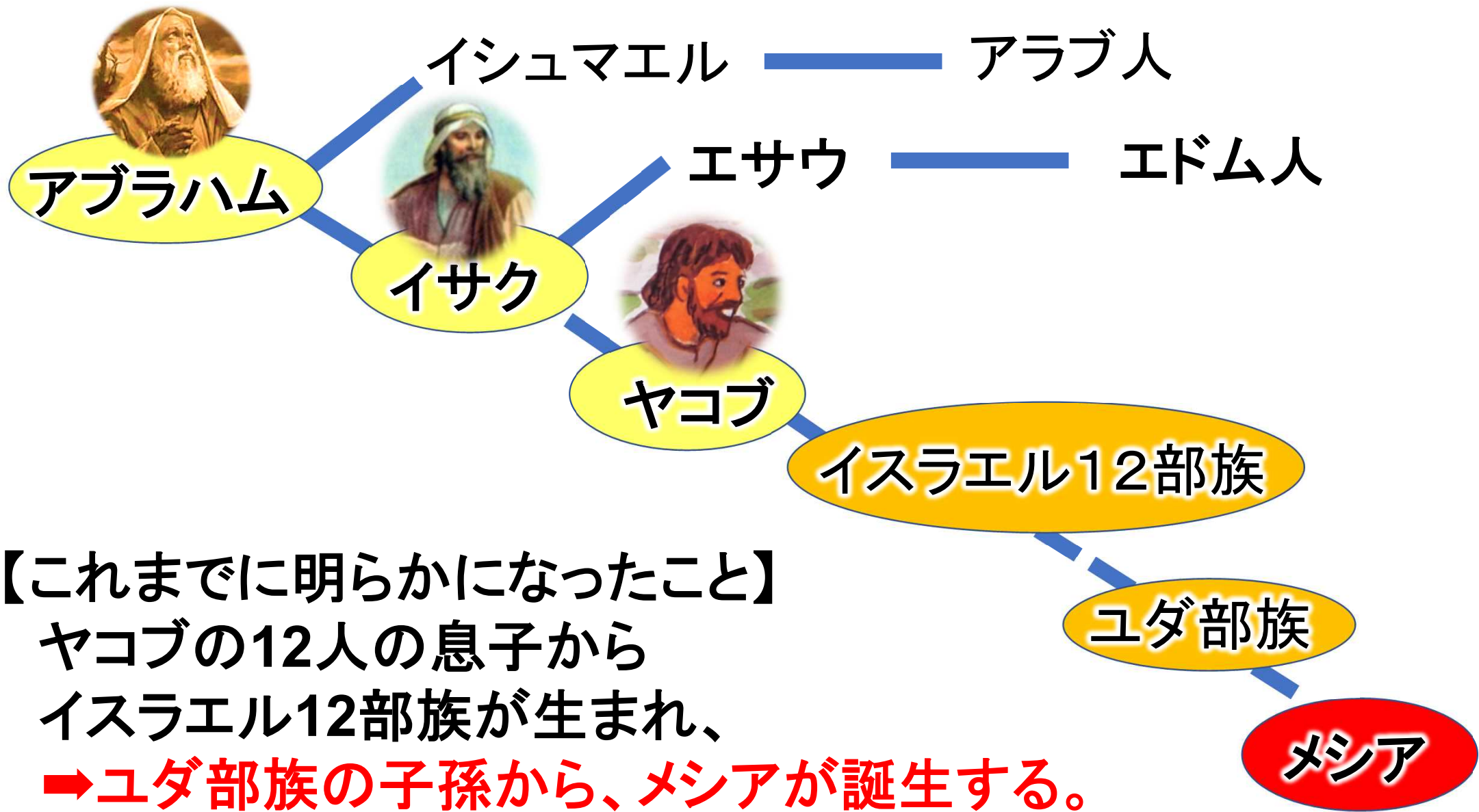
⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来



【これまでに明らかになったこと】

ヤコブの12人の息子から
イスラエル12部族が生まれ、

➡ユダ部族の子孫から、メシアが誕生する。

【ダビデのプロフィール】

- ①ユダ族出身 故郷はベツレヘム
- ②ボアズ(ルツの夫)→エッサイ→ダビデ
エッサイの8人の息子の末っ子
- ③職業は、元・羊飼いです。
- ④特技: たて琴、石投げ。
- ⑤30歳で王となり、40年間、イスラエルを統治。
- ⑥多くの詩歌を残した詩人。
- ⑦享年70歳。



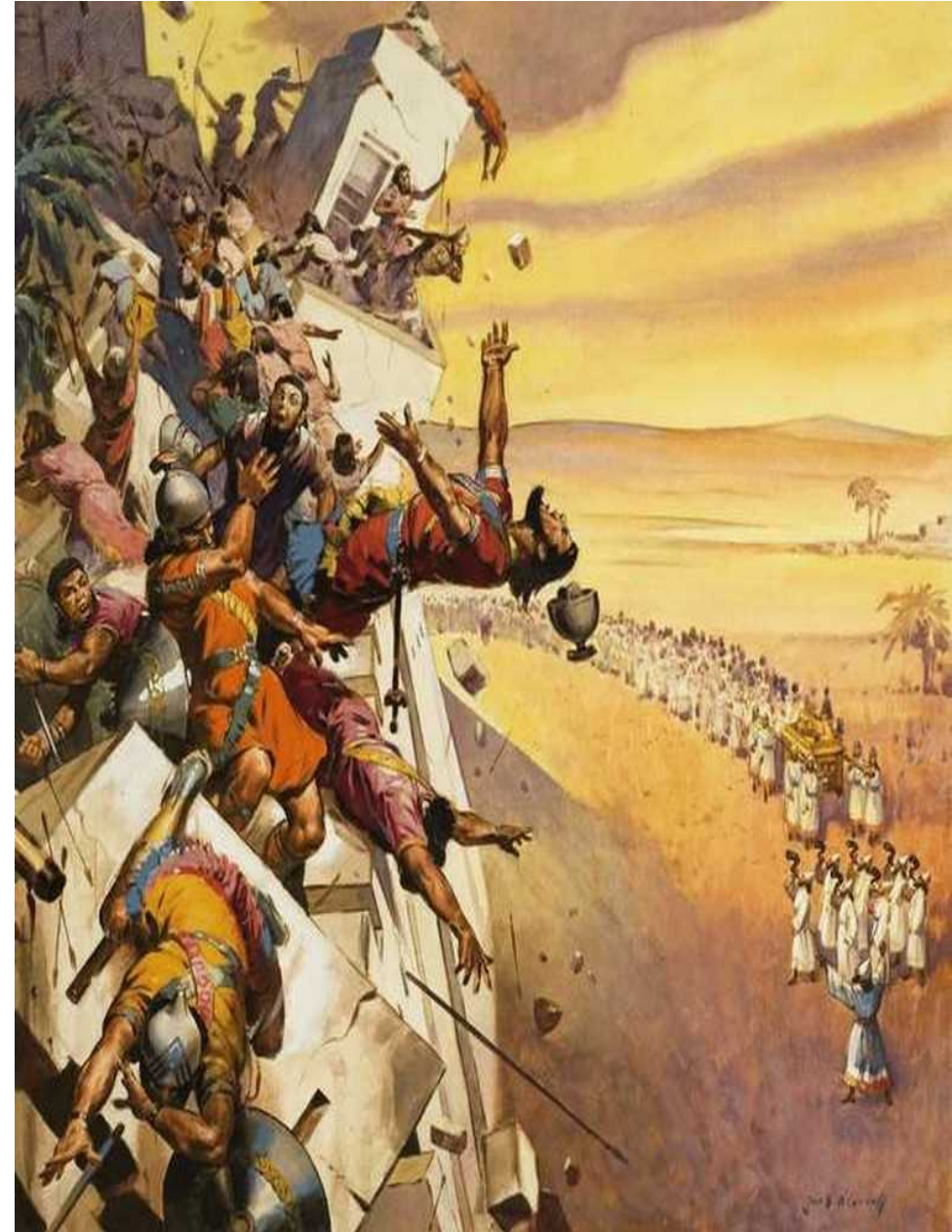
I. 混沌の時代

～士師たち 王の誕生～



【カナン征服】 ヨシュア記

- モーセの死後、
後継者ヨシュアが、イスラエルの民を約束の地に導き入れた。
- 神は、イスラエルを用いて、
罪の極みに陥っていた
先住民カナンを裁いた。
- イスラエルの民は、戦いの末、
12部族それぞれの土地を
手に入れた。



【混沌の時代】 士師記

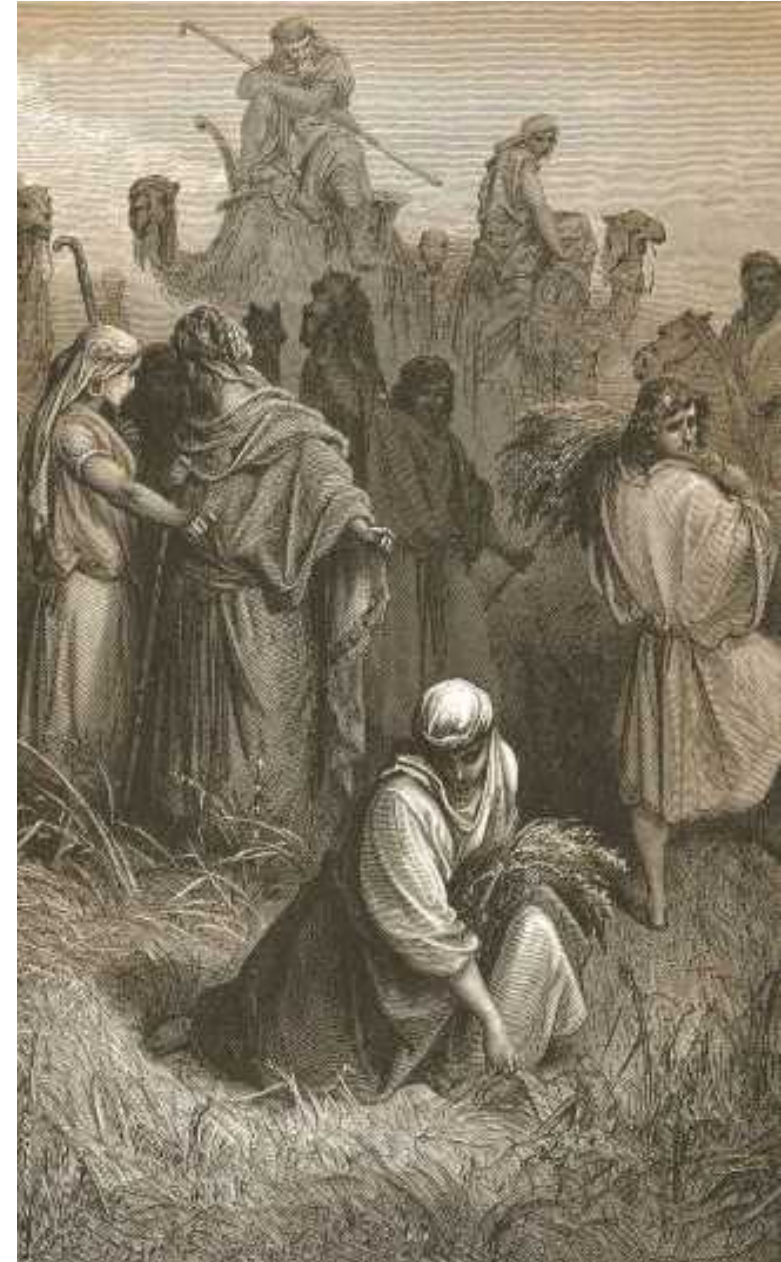
- この後、イスラエルは神に背き、偶像礼拝に陥り、様々な悪がはびこった。約400年間、混沌とした時代が続いた。
- 「士師」と呼ばれる部族のリーダーはいたが、イスラエル全体を導く者がいなかった。

「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた。士師記 21:25」



【守られたメシアの系図】 ルツ記

- 士師の時代の希望が、やもめ・ルツ。
ルツは、異邦のモアブ人でありながら、
イスラエルの神を信じる者だった。
- 姑ナオミを慕い、姑の故郷ベツレヘムへ。
ルツは、ボアズの下に嫁ぎ、
オベドを産み、メシアの家系をつないだ。
- ボアズ → オベド → エッサイ
エッサイから、ダビデが生まれる。



【イスラエル王の誕生】

■ イスラエルは、自分たちのために王を求めた。
まだ、神の時ではなかったにも関わらず。

■ しかし、神は、イスラエルの利己的な願いに応えられ、**サウル**が王として選ばれた。

■ 最後の士師サムエルから、**サウル**に、油が注がれた。

■ 「油注ぎ」は、**サウル**に神の霊が注ぎ、
神によって王とされたことを現していた。

※“油注がれた者” ⇒ **メシア**
ここから救い主を「メシア」と呼ぶようになった。



【サウル王の神に対する罪】

■しかし、サウル王は、大きな過ちを犯した。

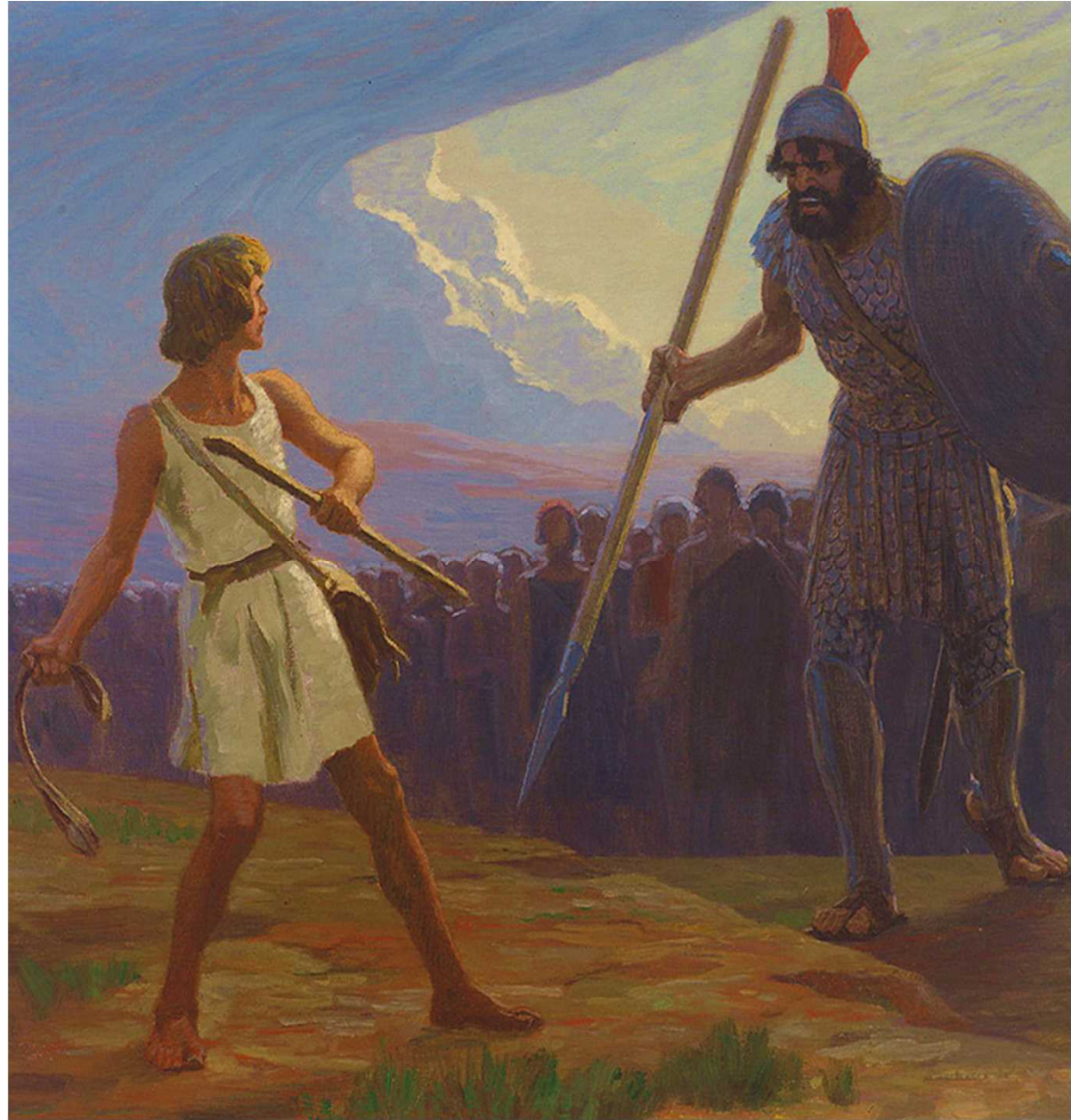
- ①領分を侵し、祭司だけに認められていた犠牲の献げ物をし、神の律法を破った。
- ②敵を完全に滅ぼせ、という神の命令に背き、最上の家畜を自分の獲物として略奪した。

■これらの罪によって、
サウルのイスラエル王の資格は失われた。



Ⅱ. ダビデの 召命と試練

第一サムエル記



【ダビデの召命】 サムエル16章 P492

16:1【主】はサムエルに仰せられた。

「いつまであなたはサウルのことで悲しんでいるのか。わたしは彼をイスラエルの王位から退けている。角に油を満たして行け。あなたをベツレヘム人エッサイのところへ遣わす。わたしは彼の息子たちの中に、わたしのため、王を見つけたから。」

- サムエルは、密かにベツレヘムに行き、エッサイの8番目の子、ダビデに油注いだ。



【ダビデ・ゴリアテを討つ】 サムエル17章

- 強大な敵、ペリシテ人の巨人ゴリアテが、
一対一の勝負をイスラエルに挑んだ。
- 誰もが恐れひるむ中、兄達に食事を届けに
きた、年若いダビデが、名乗り出た。
- 羊飼ダビデは、熊や獅子も撃退してきた
石投げによって、ゴリアテを打った。
- ダビデは、兵士として王に召し出され、
華々しい戦果を挙げ、民に讃えられた。

「サウルは千を打ち、ダビデは万を打った。」



【ダビデ・サウル王に妬まれる】 18章

- 神への背きを重ねたサウル王から、神の霊は去り、ダビデへと移った。
- 悪霊にとりつかれた*サウルは、ダビデへの嫉妬心と猜疑心にかられた。
- ある時、王の安眠のため琴を弾いていたダビデを、サウロは殺そうとした。
- こうしてダビデの逃亡生活が始まった。

* 神がゆるされたサウルへの懲らしめ



【ダビデの逃亡生活】

- ダビデの逃亡生活は、何年にも及んだ。
- サウル王の執拗な追跡を逃れながら、荒野を放浪する日々だった。
- 敵の都に逃げ込んだときには、ダビデは殺されることを恐れ、気の狂ったふりまでした。
- それでもダビデは、いつも主を賛美し、琴の音色に合わせて、祈りをささげた。詩篇には、ダビデの歌が最も多く収められている。

「詩34:1 私はあらゆる時に【主】をほめたたえる。
私の口には、いつも、主への賛美がある。」



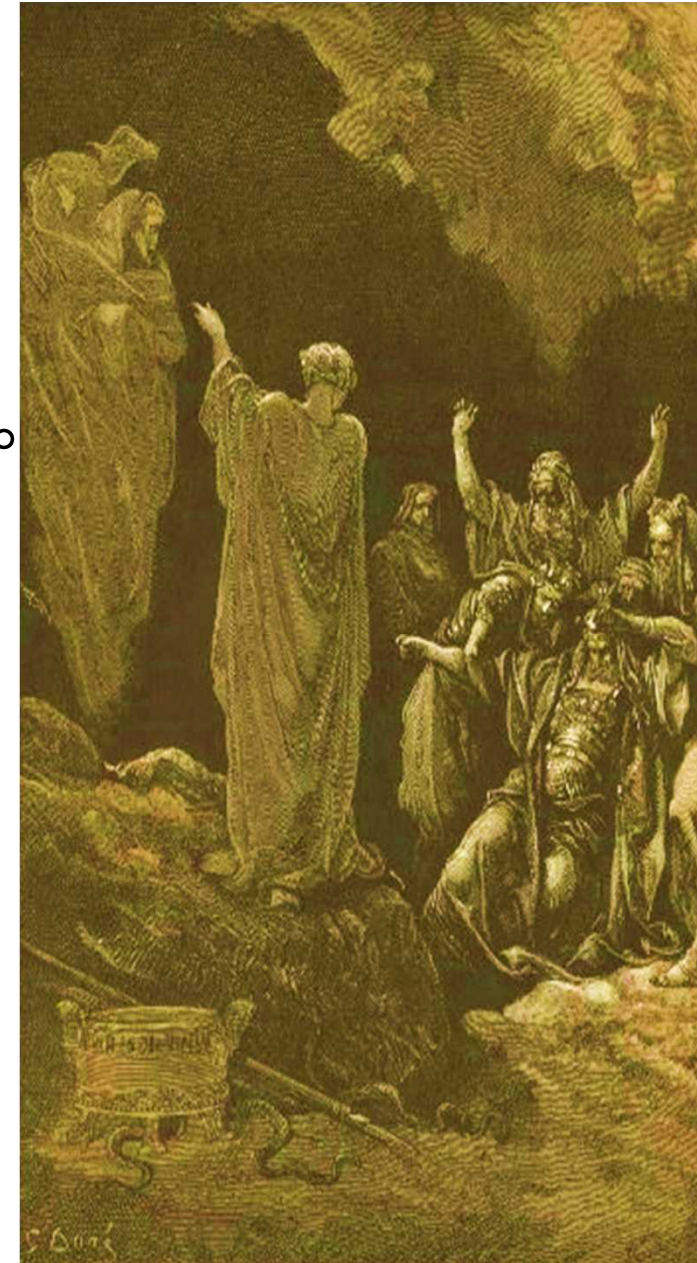
【ダビデ・サウル王を見逃す】 24,26章

- サウル王は執拗にダビデを追跡した。
- サウルが用を足しに入った死海のほとりの洞窟に、偶然、ダビデが潜んでいた。
- 討ち取る絶好の機会だったが、ダビデはサウルの着物の端を切り取っただけで、王への反逆の意思がないことを示した。
- 同様のことが、二回もあったが、神を畏れ、王を敬うダビデは、手をださなかった。
- それでも、サウル王のダビデへの敵意は変わらなかった。



【サウル王の過ちと死】 28,31章

- 孤独なサウル王は、王国の危機の際、
霊媒師に依頼し、死んだ預言者サムエルを
呼び出させた。律法で堅く禁じられた罪だった。
- 霊媒師も驚いたことに、本物のサムエルが
現れた。サムエルは、サウルの罪のため、
王権はダビデに渡されたことを告げた。
- この後、ペリシテ人の大侵攻により、サウル王
は、息子と共に討たれ、壮絶な死を遂げた。



Ⅲ. ダビデの 栄光と過ち

第二サムエル記



【ダビデ王の即位】 サムⅡ5~7章

- サウル王の死後、ダビデはまず、イスラエル南部のユダの王となった。
- ダビデは、エルサレムのエブス人を打ち、エルサレムに契約の箱を運び上げた。
- **エルサレム**が、イスラエルの都となり、ダビデは、全イスラエルの王となった。敵に対しても、続々と勝利を収めた。



【ダビデ王の過ち】 サムⅡ 11章

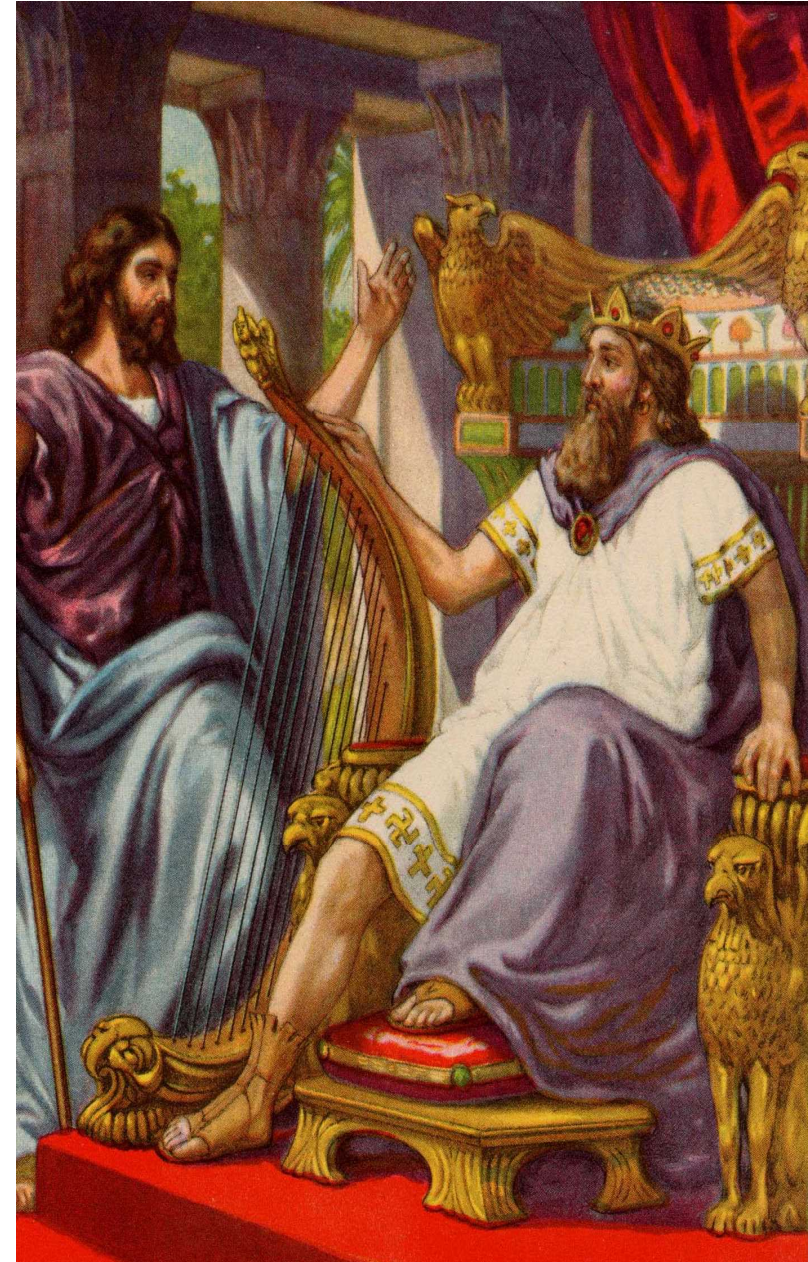
- ある時、城壁を歩いていたダビデは美しい女が沐浴する姿を目にする。
- 部下ウリヤの妻バト・シェバと知り、宮廷に召し入れ、関係をもった。
- バト・シェバが子を宿したと知ると、ウリヤを激戦地へ送り、殺してしまう。

絶対的な権力を持つ、王だからこそ犯せた罪!!



【ダビデ王の悔い改め】 サムⅡ 12章

- 預言者ナタンがダビデを訪れ、
一人の羊飼いと、非情な主人の話をした。
- 羊飼いに同情し、「そんな男は死刑だ」と
激怒するダビデに、ナタンは、告げた。
「それは、あなたのことだ」と。
- ダビデは、神の前に悔い改めた。
- バト・シェバの宿した子は、生後まもなく死去。
- その後に、**ソロモン**が生まれた。
⇒ **ソロモン**が、次の王となる。



【家庭問題に苦しんだダビデ】 サムⅡ13章～

- 長兄アブサロムは、妹タマルを辱めた、腹違いの弟アムノンを殺した。
- その後、アブサロムは、父ダビデに反逆しエルサレムを奪取。ダビデは、都落ちした。
- アブサロム率いるイスラエル軍とダビデ軍が戦い、アブサロムは戦死した。
- エルサレムへ帰還したダビデだったが、息子を失った悲しみは、癒えなかった。



IV. ダビデ契約 サムエル7:1~17

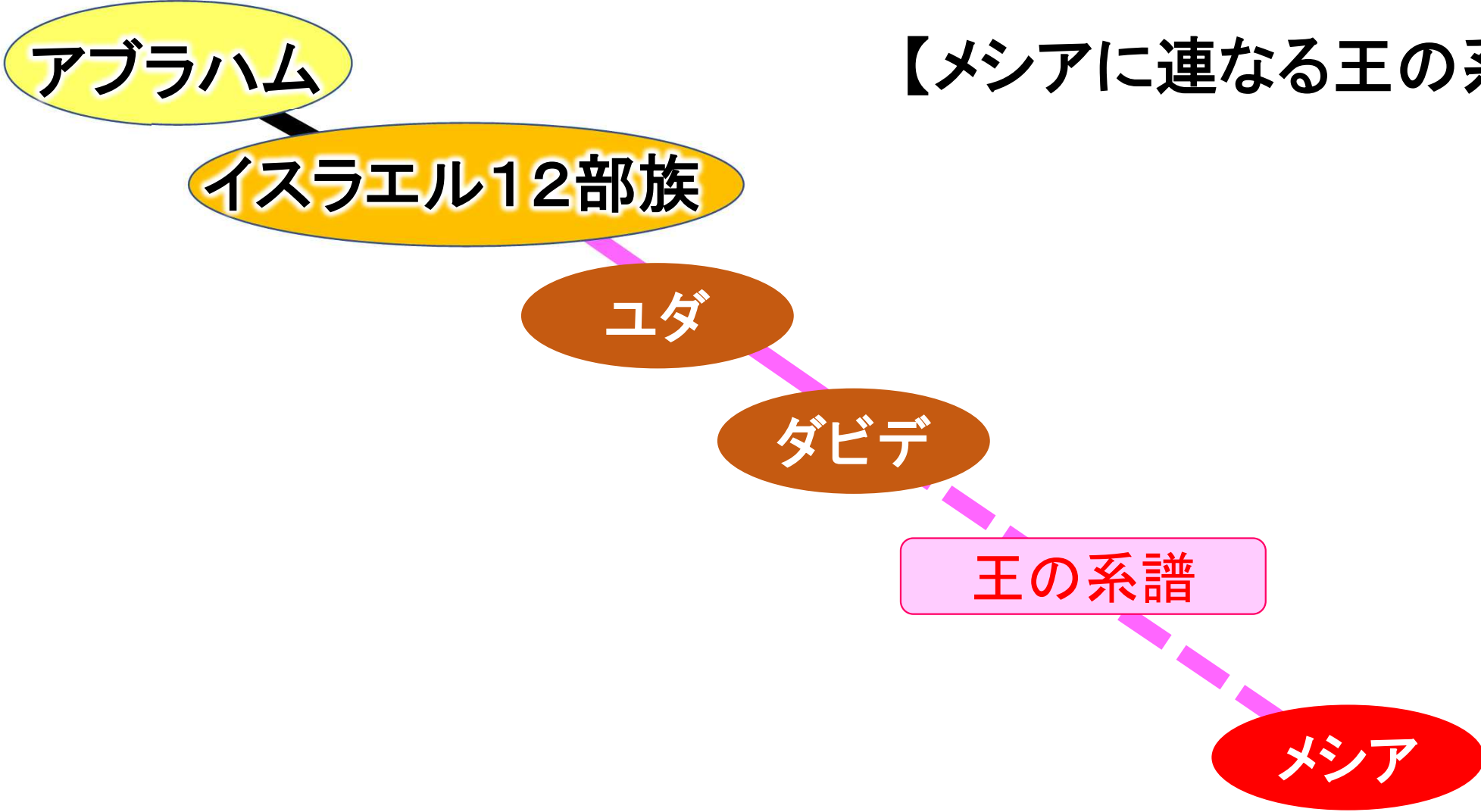


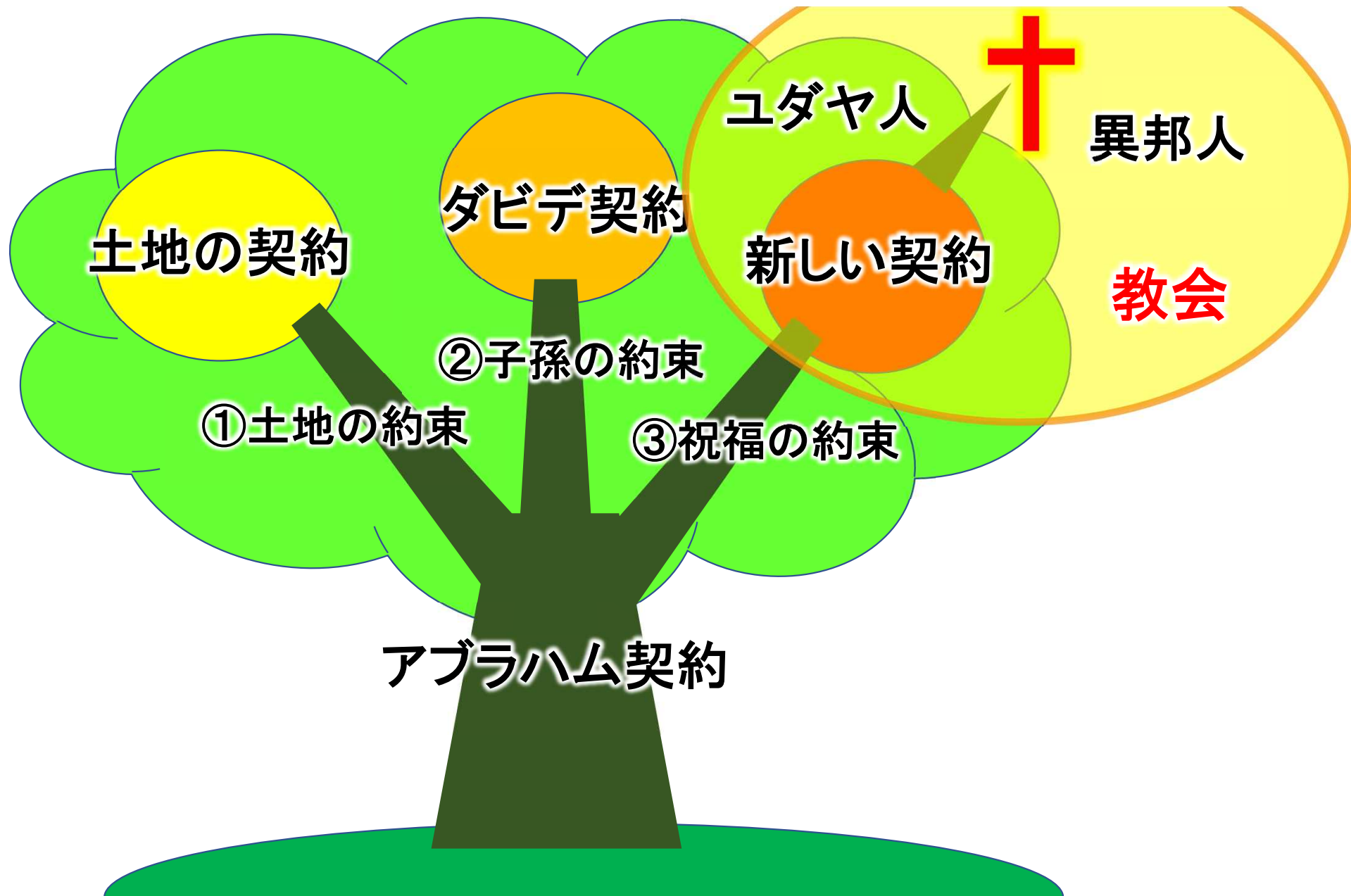
【ダビデ契約とは？】

- エブス人を討ち、エルサレムを手にしたダビデが、契約の箱をエルサレムに運び入れた後、神から与えられた約束。
- アブラハム契約の「子孫の契約」の発展版
- ユダ族のダビデ王の家系からメシアが誕生することが明らかになった。



【メシアに連なる王の系譜】





【ダビデ契約】

■ ダビデ契約について、二カ所に記載がある

■ ほぼ同じだが、微妙に異なる。

⇒ この違いが重要!!

①サムエルⅡ 7:11～16

②歴代誌Ⅰ 17:10～15



【①世継ぎソロモンとダビデの子孫】 サムエルⅡ 7:11～16

『【主】はあなたのために一つの家を造る。』

7:12 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、**あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。**

7:13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。

7:14 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。**もし彼が罪を犯すときは、わたしは人の杖、人の子のむちをもって彼を懲らしめる。**

7:15 しかし、わたしは、あなたの前からサウルを取り除いて、わたしの恵みをサウルから取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。

7:16 あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」



ソロモンのこと

ソロモンは罪を犯し、
懲らしめられる

【②ダビデの子孫・メシア】 歴代誌 I 17:10～15

17:10 『【主】があなたのために一つの家を建てる。』

17:11 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちのもとに行くようになるなら、わたしは、あなたの息子の中から、あなたの世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。

17:12 彼はわたしのために一つの家を建て、わたしはその王座をとこしえまでも堅く立てる。

17:13 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。わたしはわたしの恵みをあなたの先にいた者から取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。

17:14 わたしは、彼をわたしの家とわたしの王国の中に、とこしえまでも立たせる。

彼の王座は、とこしえまでも堅く立つ。」



こらしめがない

永遠のメシア王国

【ダビデ契約を記した二カ所の違い】

■サムエル記Ⅱ 7:11～16

- ★跡継ぎソロモンについて(7:12)
- ★ソロモンの罪と懲らしめの予告(7:14)

■歴代誌Ⅰ 17:10～15

- ★こらしめについての記述がない。
- ★永遠の王座に就くメシアの予告(17:14)

「人間の王座」についての預言

「メシアの王座」についての預言



【ダビデ契約の特徴】

- ①神が、ダビデを通してイスラエルと結んだ契約。
- ②神が一方的に結ばれた、無条件契約。
- ③ダビデの息子が王座を確立し、神殿を建設する。
- ④息子(ソロモン)は罪を犯すが、王座からは退けられない。
- ⑤メシアは、「ダビデの家系」から出る。
- ⑥ダビデの王座は、永遠に続く。
- ⑦究極的に永遠の王座を立てるのは、
メシアである、イエス・キリスト。
⇒神の国「千年王国」において実現する。



聖書の最大のテーマは、

「神の栄光」

(「シャカイナグロリー」)

その地上での喪失と回復

天地創造 創世記1章1節

地の再創造(エデン)

創世記1章3〜2章3節

天使の墮落→

最初のアダム 人の墮落→

キリストの十字架

最後のアダム 最後の再臨 ←

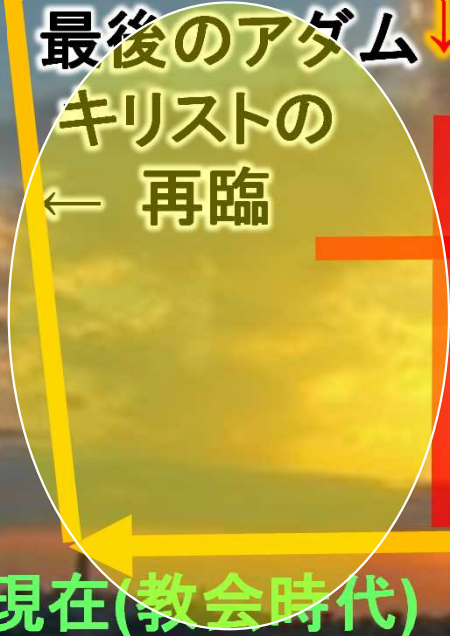
キリストによる ←最後の裁き

千年王国(エデンの回復)

新天新地

黙示録21〜22章

現在(教会時代)



V. ダビデに学ぶこと

～救いを
完成してくださる主～



【ダビデの最後の詩 ～メシアとダビデ契約～】 II サム23:2～7

「【主】の霊は、私を通して語り、そのことばは、私の舌の上にある。

イスラエルの神は仰せられた。**イスラエルの岩**は私に語られた。

(メシア)

『義をもって人を治める者、神を恐れて治める者は、太陽の上る朝の光、雲一つない朝の光のようだ。雨の後に、地の若草を照らすようだ』

まことにわが家は、このように神とともにある。**とこしえの契約**が私に立てられているからだ。このすべては備えられ、また守られる。まことに神は、私の救いと願いとを、すべて、育て上げてくださる。」

【ダビデが最後の歌にこめたもの】 II サム23:2~7

『義をもって人を治める者、神を恐れて治める者は、太陽の上る朝の光、雲一つない朝の光のようだ。雨の後に、地の若草を照らすようだ』

■これは、完全な王。やがて来るメシア、イエス・キリストのこと。
メシアの到来に、ダビデは思いを馳せている。

■ダビデは、自分の生涯を振り返り、
自分が完璧でも、義なる王でもなかったと告白している。

■ダビデもまた、神のとこしえの契約のゆえに、主に支えられた。
一方的な神の約束が、ダビデを守った。

アブラハム契約がダビデを支え、ダビデ契約が導いた。

【ダビデに学ぶこと】

■ ダビデすら、大きな過ちを犯した。

私たちには誰も、自分ではどうしようもない欠け・罪がある。

■ 私たちには、この欠けを埋めることはできない。

だから、罪なき神の子、イエス・キリストが、私たちの罪を負われた。

■ 私たちは、十字架の死と復活を信じて、罪をきよめられ、
内住される聖霊によって、成長させられていく。

■ 主イエスが再臨され、永遠の王座に就かれるとき、
私たちに、栄光の体が与えられ、完全にきよめられる。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

ダビデに約束された、永遠(えいえん)の王座(おうざ)に、

キリストを通(とお)して、私たちも招(まね)かれています。

そのよろこびで 私たちを満(み)たしてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」